



TITLE:

南阿の地形と歐羅巴人の植民

AUTHOR(S):

村松, 繁樹

CITATION:

村松, 繁樹. 南阿の地形と歐羅巴人の植民. 地球 1931, 16(2): 105-117

ISSUE DATE:

1931-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183935>

RIGHT:

状態である。

	浮羽郡	三井郡	朝倉郡	合計
明治四十三年末日	五〇三三	五五九	八七四	二〇六七
昭和三年末日	五二六二	七〇四四	八七三三	三〇九三九

明治四十三年と昭和三年とを比較する時三萬人の減少を示してゐるが、之は三井郡の一部柳原村國分村等が久留米市に合併せられた爲、及び時代の影響の結果であつて、人口増減を明治

南阿の地形と歐羅巴人の植民

村 松 繁 樹

初年からグラフに書けば大體二十萬を中心として僅かに上下してゐて直線狀をなしてゐる。從つて二十萬内外の人口が農業組織下に於ける本地域の收容し得る全能力であるらしい。今後此の組織が變化し、生産の増加を來たさない以上東部筑紫平野の人口動態は、飽くまで停滯の状態を續け、勞力の供給地としての人口移動は止まないであらう。

世界發見時代に次ぐ各大陸に於ける歐羅巴人の植民は實に目覺しきものであつた。而して彼等の活躍は地球上何處に於ても其の地方の地理的環境に制約されながら、或は又之に應化しながら進化したものであつたことは否み得ない。彼のシベリアに於けるロシア人の東進は、假令

最初の動機は毛皮獸を追求めたものであつたとは云へ、實に驚嘆すべき勢力を以て最も華々しく成し遂げられたのであつた。此の間、一年として新領土が露西亞帝國に加へられぬ年とはなかつた。有名なイエルクマックがシベリア拓植の基礎を置いた時から、デジュネフがコリマ河口

よりベーリング海峡を通過してアナディール港に達した時（一六四八年）に至るまで、即ち露西亞が亞細亞北部の攻略計畫の完成に要した年月は僅に六十七年であつた。これ其の地の平原にして、交通を利する大河こそ存したれ其の進行を遮斷する高峻な山脈の如きものが存在しなかつたことに依るに外ならない。北亞米利加に於ける英人の植民は之と著しき對照をなしてゐる

（Vladimir; Russia on the Pacific and the Siberian Railway, London, 1899. 參照）かのウオーターローリーがヴァージニアの植民地を開いて以來第十七世紀末には北米東岸を領有したのであるが、アバレーチア山脈に遮斷されて其の西進を妨げられてゐた。其の中部平原は第十七世紀の初めつ方加奈陀東岸に植民した佛人によつてセントローレンス河を遡り、後ミシシッピ河を遡つた佛人に依つて占領さるゝ所となり、英人が加奈陀を領有するには約二世紀を要したのであつた。更には峨々として略々南北に連亘するロッキーマountain系は其の後までも西部海岸

への到達を更に妨げたこと等は遍く人の知る所である。

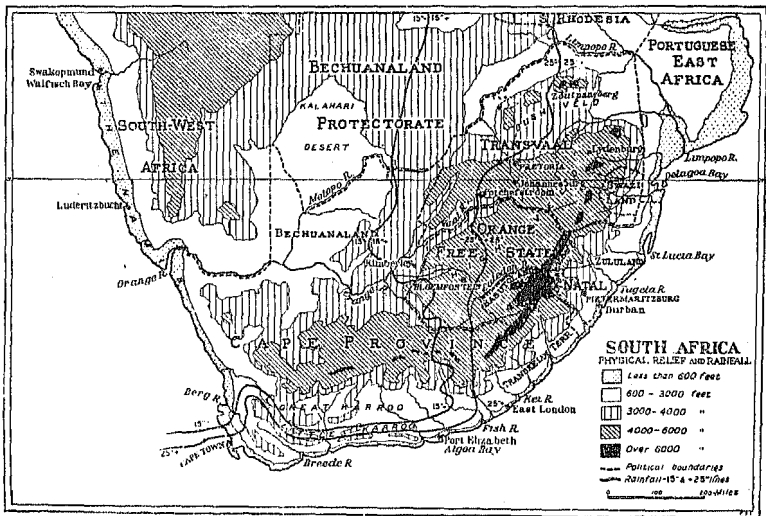
またオーストラリア大陸に於ける白人の植民が、其の地形並に貿易風及びそれに伴ふ雨量と密接なる關係の下に營まれたことも周知の事實である。（G. Taylor; The Frontiers of Settlement in Australia. The Geogr. Review, vol. XVI, No.1, Jan. 1926.）

アフリカに就いても其の開發の進歩を説く者は必ず地形との關係を指摘したのであるが、其の中特に南阿に就いて詳細に其の關係を明瞭にしたものに、ケープタウン大學教授ウォーカー氏（Eric A. Walker）の「南阿の地形と歐羅巴人の植民」（Relief and the European Settlement of South Africa）なる研究がある。（The Scottish Geogr. Magazine, vol. XLVI, No.1, Jan. 15, 1930.）余、興を覺えて盲譯したことがあつたが三高以來懇切なる御指導を賜れる藤田元春先生の御勧誘によつて、爰に拙き此の一文を親愛なる地球愛讀者諸兄姉に捧げる。

著者は特に一八七五年頃以前に於ける歐羅巴人の南阿植民に及ぼした地形の影響に注意を向けてゐる。何となれば其の當時未だ移入民の狀態に在つて少人數が而かも散在して居り現世の物品と知識とに乏しかりし一社會の活動と運命とは、一八七〇年代の鑛業と運輸と醫學の革命以來發達して來た更に密接なる結合團體のそれらよりも、遙かに決定的に土地の形勢に依つて支配せられてゐたからである。且つ一八七五年迄に、それ以來來つた全てのものゝ爲めに活躍舞臺は立派に整へられたのである。

舞臺それ自身は單純な中に荒削である。南阿の地塊は、不完全ではあるが珍らしくも連續した輪廓を有つ平行四邊形をなしてゐる。それは二つの主要な地域に分たれる。三つの段階に成つて海面からドラケンスベルグ山脈(Drakensberg)の大斷崖とその西並びに北方への擴がりまで高まつてゐる錯雜した褶曲山脈の地帶と、此の斷崖の向ふに在る海拔少くも四千呎の高度を有つ非常に古い岩石より成る高原とである。

南阿の地形と歐羅巴人の植民



海岸に向つて集中的に走つてゐる此の漸上の三段階は西南部と南部とに於て最も明瞭に輪廓づけられてゐる。海岸地帯そのものは西岸では可成り廣く、南部では狹まり、東方へ延びるに隨つて再び廣く成つてゐる。初期の植民者が甚だ多數の散在せる牧農生活を營んでゐたホッテントット蕃族——所謂現今の有色民族の基礎的人員——を見出したのは此處であつた。南部の心地良き「地中海」的な土地から一步上進すれば、小カルー(Little Karoo)の切株多き叢林中に入る。更に一步進めば大カルー(Great Karoo)が裸で氣味惡く彼の大斷崖まで擴つてゐる。アルゴア灣(Algoa Bay)の彼方では其の段階はそれ程明瞭に表れてゐなう。併しトランスケイ地方

(Transkeian Territories) ナタニ(Natal)ズルランド(Zululand)デラゴア灣(Delagoa Bay)の直後に在る地域では尙ほ三つの平面がある。著う濕潤な海岸地帯に次いで草地と刺多き叢林と蘆薈との廣い擴りがあり、其の上手に草と羊齒との生えた大山脈の前山がある。今日まで最も稠

密なバンツール人(Bantu)の人口はスワジランド(Swaziland)フィッシュ河(Fish River)間の二つの低い方の平面、而して主として中央平面に見られる筈である。

中央高原の樹木無き一面の草の生えた平地即ち High Veld は東北ケープ州、自由州バストランド(Free State-Basutoland)及びトランスヴァール州南部に擴つてゐる。フレトリアの北では土地は下つて灌木草原(Bushveld)と著うリンボポの谷になつてゐる。尤も此處でもドラケンスベルグ山脈の北方の延長が其處を通過して上方に走り更に西方へ曲折して、尙ほ多くの土着の部落民を庇護する山嶽重疊の地方たる所のズートバンスベルグ(Zoutpansberg)に至つてゐる。西方の高草原は、地表水の供給は悪いが部落民の、最も多き地方たるベチュアナランド(Bechuanaland)の草地と矮小樹林を経て漸次に下りカラハリ沙漠凹地に至つて居る。カラハリの向側になると土地は更に一度高くなつて西南アフリカの高地となり、此處は他の部落民と

其の敵手たる歐洲民族の住地である。

著しい事實は、或る箇所では一萬一千呎にも達す最高の縁を有つこの高原が東南に面せることである。かゝる事實の氣候、諸河の流れの方向及び降雨に對する關係を見やう。

土地の高度は周圍の大洋の全體の廣りが陸地を圍繞する割合の多きと相俟つて、南阿に全體として可成り一樣な年平均氣溫を與へる。高地地方に於ける日々の較差は當然海岸地方に於るよりも遙に大きい。併しその氣溫は、歐洲人の家族とその熟練せる職業を溫和なアフリカ西南隅から北の方「大なる灰綠色の脂油のやうなリンボボ」の見ゆる所へ移住せしめることを妨げる程惡くはなかつた。實際土地は海拔三千呎にも達し、更に「高草原」の面よりも高くなつてゐるこの河の向側に於ては、南部ローデシアからウガンダ境界に到る路傍至る處歐羅巴人の家族が榮えてゐるのを見るであらう。併し是を申してゐては豫定の頁數と地域の範圍を遙に越えるから省略することとする。

土地の形勢は亦諸川の流れ（の方向）を支配してゐる。是等は地圖の上でも數多く目立過ぎさへしてゐるが、實生活に對しては甚だしく當てにならぬものである。或る河は雨期には深い山峽に沿つて烈しい激流となつて押進み側面の山脈を切り開く。他の河はテレースからテレースへ飛瀑と成て跳び下つて來る。殆んど全て深い河床を流れ、デモ灌水車は何の施す術も無い。而して河川の大多數は乾燥期には甚だ果敢いものであるから、案内記には川が一年中舟行を許す場合には喜んで記入してゐる。一つとして河の交通路として實際に役立つもの無く、或る河は急流によつて不通となり、他のものは大洋潮流と共働して南阿の表土を其の河口に沙堤の形に堆積して交通を妨げてゐる。西南の褶曲山脈の間を緩やかに流れてゐる年中絶えぬ流水は、水運には餘りに小さいが、一般農業植民の初期の線を成してゐた。他の所では生活線は諸川に沿うてゐはなく、それらと直角に走つてゐる。我が主要鐵道線路の方向を注視せよ。而して大體

にそれは、これより先既に移住者が第十九世紀の半頃探つた線に従つてゐることを記憶せよ。移住者にとつて一つの河の最も重大なる點は、恐らくそれを横斷する淺瀬の數と性質とであつた。

是等諸川は雨期には時として重大なる軍事上の妨害物であつた。五十年前、一八七九年の事件を指す(氾濫したテグエラ河(Tugela)はナタルをズールー族(Zulu)のイサンドルワナ(Isandhlwana)侵入以前に救助し得た。また其の後ブラー(Buller)がレディスミス(Ladysmith)を救済する計畫を困難ならしめた。ローヅ卿の先發隊はマシヨナランド(Mashonaland)で會へる最初の雨期中、氾濫した諸川の爲め孤島に捨てられる状態に陥つた。併し乾燥期には河は大して妨害にならぬ。諸河は屢々政治的境界として役立つた。ケープ州東境の歴史は、常に歩一步東方へ向つて順次に選ばれた河の名に依つて區切られ、白人種と黑人種間の區分線として役立つてゐる。併しかゝる見地から諸川を見てもそれ

らは經線より注意せられ易く鐵狀網より安價だと云ふ位の役割にすぎないのである。

土地の高低は降雨を甚しく支配する。南阿の大部分は十月から三月までの夏期に降雨を見る。雲は大洋から東南貿易風に送られて来る。雲が昇るにつれて中央高原の聳立する縁を拭ひ、デラゴア灣から北方モザンビーク(Mozambique)暖流に洗はれ瘴氣あるヒンタラランドに後を接せる低平な東方海岸に沿う地方へ大量の降雨を齎す。そのヒンタラランドはポルトガル人が早く居住した所で、その子孫等は失望の憂目を見いつも乏しい生活しか營み得ない所であつたが遂に千八百九十年代のトランスヴァール、ローデシアの(Transvaal and Rhodesian)金鑛と鐵路が、その土地が甚だ良く適してゐる熱帶產物を發達さすべき必要手段を與へるに到つた。

更に南方になると東南より来る雨雲はズラランド及びナタルの亞熱帶海岸地帯に優に四十時の雨量を與へるが、トランスケイの土人地方はいさゝか少くなる。高い山脈を越えて後も、バ

ストランド (Basutoland) では麥類を栽培するに充分な雨量があり、自由州では泉や鑿井に依つてゐるがカレドン河 (Caledon) 西方までの廣大な地帯では同様の雨量がある。と云ふのはバストランドと其の下方の土人地方は廿五時の雨線内にある。これは南亞歴史のか成り多くの部分が現れる雨線である。それに沿うて第十九世紀初半の所謂カフィル (Kaffir) 戦争や千八百五十年代及び六十年代の自由州—バスト戦争が行はれた。是等の戦争はかの世界大戰がオーストリア皇太子殺害に關してゐたのに對して、僅かに盜まれた家畜に關する位のものであつた。それらは、共に家畜農夫たる文明人と部落民間の有望地に對する争ひであつた。概言すれば、歐洲人側はその雨線の不利益な側に立つてゐたので、それ以來地勢上の不利益な均衡を整へようと試みて來たのである。

減少した雨雲は、フィッシュ河上流から發して自由州の西部國境とベチュアナランド東部三分の一の外側を走れる一線に及ぶ程遠くまで尙ほ十

五時の雨量を與へ得る。フィッシュ河上流地方は歐洲人が始めてバンツウ人前哨と接觸した所である。移住者達が、失敗に終つたが、彼等の勢力を擴大せんと試みたのは此の限界までであつた。傳道々路が部落から部落へとベチュアナランドを通つて中央アフリカまで伸びたのは此の範圍内であつた、従つて高草原への急攀な登降を避けてゐる。今日此の道路に沿つて北方への主要鐵道線路が走つてゐるが、鐵路が唯此の道だけを走つたのはクルーガー (Kruger) が正當な政治上の理由の爲め、ローヅ卿に鐵道をヨハネスブルグとプレトリアを通して、生活線に沿ひながら敷設しゆくことを許さなかつたためである。

斯の如くして雲は東部及び中央カルー地方を過ぎ、其の間に此の山脈に水分を吸收され、更に中部オレンジ流域のブッシュマンランド (Bushmanland) の乾燥平原を過ぎ、カラハリ沙漠を横ぎつて終に西南アフリカの高地にその残せる僅の水分を與へ盡す。従つて西部海岸地帯、ナミ

ブ(Namib)、大西洋と西南アフリカの丘陵間に横はれる恐しき風に吹き曝されてゐる延擡した砂地と、ケープ州西北隅とには殆んど一滴の雨も降らない。人々が今其處に住んでゐるのは、砂丘にダイヤモンドがあり、鐵道が小港と水槽とを後背地域の農場と銅山へ聯絡せしめてゐるからである。而も總てそれ等のことは最近の出來事である。

不幸にも西部海岸はベンギエラ(Benguelia)寒流と夜毎の海霧を當てにするのみであるが、しかし蛇蜂取らずに終り、東南風は何も與へないし、西北逆貿易風からも殆んど何物も得ない併しもつと南方になると逆貿易風はアフリカ西南隅に掛り、ケープタウンの四近には主として四月から十月までの冬期に四十吋程の雨量がある。

歐羅巴人の南阿侵入が本當に始まつたのは此の西南隅の多少地中海的な土地からであつて、一六五二年、和蘭東印度會社が風、潮流、土地の状態により船舶は東印度への往復途上着陸せ

ねばならぬとされた所の一地點に、乗組員の爲め休息所を建てた時である。是よりケープタウンは風に吹き曝しの錨地たるにかゝはらず、重い荷物は不可にしても少くとも西歐文明の中心地から南阿へ人々と思想との入る門戸となつた三十年間に農夫達はケープフラッツ(Cape Flats)を越えてステレンボッシュ(Stellenbosch)へ達した。更に二十年間に彼等の穀類と葡萄酒は「阿弗利加山脈」の麓でベルグ河流域にずつと沿うてフレンチホーク(French Hoek)からタルバー(Tulbagh)まで擴張された。暫らくの間は、宛もそれらの山々と、散在することを禁ずる公報とが、當時英國北部亞米利加植民地に於てそれに類似の布告とアレガニ(Alleghanies)に依つて演ぜられたる役割―その背後で強力な海上農業上の基礎が將來の發展支持のため建設せられるであらう所の堡塞としての役割―を、小規模で演じてゐるかのやうに見えてゐた。こうしたやうな事柄があつて、此の原初の植民地を今日まで歐洲人の南阿居留地の中最も強固な

ものたらしめることが出来た。又千八百五十年代に羊毛・海鳥糞・銅が輸出品となり得た以前に於て、葡萄酒を擧ぐるに足る唯一の輸出品たらしめ得た。併し其の發展に充分な基礎を與へるには到らなかつた。それは全て餘りに小規模であつた。一七〇〇年迄海岸植民地は分れ争ひそしてその社會の第三階級たる家畜農夫達は既にタルバー峠の路により山脈の側面を廻りずつと内部へ進出する先頭になつてゐた。

ケープ半島とベルグ河流域植民地間の仲違には多くの原因があつた。今日迄ケープタウンは實際の所南阿の一部分でないと云ふ人も可成ある。丁度カタラクツ(Cataraqu)から來たかなりのエジプト人が多分當時のアレクサンドリアに就いて云つたであらう通り。それはそうとしても地勢が此の不知の原因をなしてゐた。第十九世紀の半頃草と樹と難路とで遮斷せられてゐた間は、二十哩に亙る軟い白砂地を有てるケープフラッツはケープ半島を一島たらしめてゐた。彼等は、スエズ運河が戰略上の價值の半をそれ

から奪ひ、金剛石と金とがこれまで無價值とせられてゐた内部への入口たらしめるまで實際であつた如く、岬が本來印度帝國の西方前哨地であつた事實を強調した。

移住者達について云へば、家畜を追ふ喜は、奴隸に手傳はせる農業の勞苦に比較してより好ましいものであるから最初からそれが營まれた。市場へ往く爲め何物かを得る必要が彼等の發達を急ぎ立てた。一七〇〇年迄に彼等は山脈の背後をブリード河(Breede)の谷に沿うて、現に鐵道が小カールの端を越す所まで達してゐるヘクス(Heks)まで押下つた。一七三〇年迄には牧人達は地中海的の土地を越えて四方八方に擴つた。四〇年後不毛の大カールを横斷し或はそれに達した。そして十五吋の雨量ある範圍の縁に沿うてフィッシュ河流域地に散在するに到つた。

第十八世紀南阿の最も著名な產物たるブーア人は斯の如く地中海的地域の端に形成された。其の型は小大カール不毛地に於て固定した。彼

等を防ぐものは殆んど無く、其の主な進出線は同一中心に向ふ山脈に對して並行して進んだ。若し山脈が横切られねばならなかつた時は、北海の方の側では概して險難で長く大陸の方の側では短く緩かな澤山の峠があつて、無限の平原に開け、「世界を忘れ世界から忘れられたる」是等の人々を誘つて遠く移住せしめた。而してブッシュ人は各山列で踏止まらうとしたが、程なく永久に消失するか、その向ふの荒野へ消失しやうとしてゐる。

斯くして新しき移住地を求めたブーア人は組織立つた教會と政府から離れて發展し、強固にして自負心あるが、時折の戦争様の目的の外共同作用と或は自身以外の如何なる自由の意味をも少しも解しないことに於いては國境人に同じであつた。ホットェントット農奴を所有してゐる間奴隸無しではやりきれなかつた。集約的な栽培法は知らなかつた。彼等は東部カールの狀況が必要とする六千エーカーの農場を、若し出来るならば一は夏の、一は冬の牧場の爲めこの様な農

場を二ヶ所當然得うるものなることを知つた。やがて益々そうなつたのであるが若しも認められぬならば彼等は移住した、若しも移住すべき土地が無かつたならば彼等は動もすれば反抗せんとした。

第十九世紀初期に擴大する線は二分した。一は東方に、他は東北方へ向つた。東方へ向つたものは、西南方へ移住しつゝあつたバンツ人にはゞまれたから、困難であつた。新なる地を求めて移住したブーア人が創め、一八二〇年のグラハムスタウン (Grahamstown) 附近の英國植民者と、千八百五十年代のブリティッシュカフラリア (British Kaffaria) の更に東方地方への獨逸の移民と、いつもは帝國軍隊に依つて續けられてゐた東方國境の物語である。一八一二年頃までは兩方共人数が少かつたから壓迫はひどくなかつた。一八四七年迄、和蘭及び英吉利の相繼いだ統治者の政策は嚴重な領土分割であつたが、其の結果一八六五年迄に歐洲植民地と土着民領地の境界線がケイ河 (Kei R.) に沿うて

定められた。最も困難なりし苦戦の若干がアマトラ山地 (Amatota Mt.) に勃發したが、一般に部落民を助けたものは丘陵よりも寧ろ叢林であつた。南北に走れる可成りの山脈が在つたら其の結果は異つたであらう。

其の間、これだけ多くのブーア人を作るに役立つたカルーは、三千呎も高く聳立して更に大規模に舊西部と新東部間の偉大なる區分者としてケープフラッツ的の役割を演じた。この新らしい東部は程なくエリザベス港 (P. Elizabeth) とイーストロンドン (East London) で外の世界との接觸點を造つたのである。併しそれが起るずっと前にブーア人は見えなくなつて、土地保有の觀念やハム (Ham) エホバ (Jehova) や神々の子孫に就いての觀念を遙か内部へ傳へてゐた。中には既に第十八世紀の終らぬ内に中央高原の東南隅に在りしものもあつた。少人數の英國象牙商人が海路カッファerland (Kaffirland) の側面に廻りダーバンに居住した年たる一八二四年迄に、植民地の境界は動きつゝポートエリ

ザベス線が今横切れる中部オレンジ河を横斷する淺瀬の場所まで擴大された。十二年後大移住者はそれらの淺瀬を横斷して殺到した。

それは最も抵抗の弱い線であつた。東方へ向つた線は部落民と政府の布告によつて堰止められた。北方へのそれは非常に貧弱な土地へ入つて行つたので、一八四七年に、オレンジ河口の直ぐ南に於ける銅鑛業が眞面目に語られた様になるまで、誰も其の土地を植民地へ聯絡しようとは骨折る者が無かつた。併し東北方に「高草原」のゆるやかに起伏する草地の原野が牧農達の眼前に展開してゐた。それは今日聯邦の主要な牧畜と玉蜀黍地域である。一度マタベリ (Matabele) の軍隊が破れると(而して開闢な「高草原」はブーア流の戦法に適してゐた)、何人もブーア人とその平地の支配權を爭ふ者が無かつた。斯くしてオレンジ自由州はヴァール (Vaal) 南部に出來上り、其の北部に當つてポチエフストルーム (Potchefstroom) は「高草原」の核心となり、それを廻りて他のトランスヴァール社會

が集つて南阿共和國を形成した。

邊境地に於ては又別の話であつた。西方に於て共和國民は決して充分に「高草原」の端を越えなかつた。部落民・蚊・牧師は、地表水を缺き、

そしてやがて英本國政府は彼等をネイ(Nay)と呼んだ。北方ではウィトウォータースランド(Witwatersland)を越すと熱病があつた、そして灌木草原が「全て熱病樹林で蔽はれてゐる」リンボポ流域へ下るに従つて益々ひどくなつて行つた。にも関わらずポチエフストルームの敵手がライデンブルグ(Lydenburg)に起り、北の方ズートバンスベルグ高地に在るシューマンスダール(Schoemansdal)までも擴大した。併し兩地方が山間であること、其處に馬病のあることの爲め部落民は大いに助つた。そして一ズートバンスベルグ首領は一八九八年に到る迄獨力戦闘力を持續してゐた。併し土地の高低と土人の抵抗との關係を示す最も著名な場合は東南地方にあつた。其の峨々たる地勢と既成要塞の如き平坦なる山頂を有つ丘陵のお蔭で、バスト人は次

々とマタベリ、グリクウス(Griquas)自由州民帝王軍及びケープ徵募兵隊を撃破した。山麓に擴れる穀物畠の半以上を無駄にせずに済んだのは、山脈と英本國の干涉に依るに外ならぬ。

最後に、土地の高低はナタルの運命を形作るに重要な役割を演じた。ナタルは其の境界の一を此の國の最も重大なる軍事史の或る物が行はれた山脈に依つて示されてゐると云ふ南阿では珍しい特色を、トランスケイア地方と葡領東部アフリカと共に有つてゐる。ドラケンスベルグ山脈の麓に高く成つてゐる北部地方は、常に近隣の共和國と大いに共有する所があつた。若きルイスボース(Louis Botha)の様な牧農達は、愉快に其の區域の一方から他方へ動くのが常であつた。一八六五年のバスト戦争は、バスト人がナタルの地で自由州の家畜を奪ひ取つたことが廣汎な大事件の動機となつた。自由州が一八五四年その獨立を與へられた時、北方ナタルは彼等も亦與へられんことを願つた。首府は海から可成り遠く離れてゐる中央地方のピーターマ

リップルグ(Pietermaritzburg)に置かれゐる。併しナタルが英國植民地になつてから、事實上の中心地はダーバンと亞熱帶の沿岸地方へ移動した。其處では砂糖が最も主要な作物となり、其の仕事に印度人勞働者の移入を必要とした。一八七五年迄に聯邦内の印度人の基礎は良く實際に据へられた。

上述の如く斯くして舞臺はそれ以後の者其のために整へられた。南阿は其の海岸に沿うて此處彼處に弧立して點綴する都市的及び田園的活動の有る土地となつた。遙かにより大きいそれ以外の部分は、本質上邊疆の地であつた。五十年の長い年月が其の後經過したが、聯邦は少しも其の特徴を失はなかつた。邊疆の零圍氣と全ての光景はどこどこまでも尙ほ甚だ廣く擴つてゐる。他の都市的部分は、遙か内地に遠く離れて金剛石と金の鑛地に發生した。鐵道は小都市

を相互に結び港へ聯絡した。一般農業は都市の近くと鐵道沿線で徐々に發達した。併し最後に一の皮肉な笑草がある。近代第十九世紀の移民が續々とやつて來たのは「高草原」上へであつた、追はれたブーア達の避難所たる高草原、其の古き岩石は巨大なる鑛富を藏し、其の上部にある頁岩と砂岩とはかゝる高地の低級な金鑛をも活用せしめらるだけの安價な石炭を藏してゐた。とかくする内にローヅ卿の先驅者達はブーア人をリンポポ河より先の高地から切離してしまつた。今日ブーア人は都市へ移りつゝある。他の何處に彼等の移る地があらうか。

斯く地形は千八百七十年代の産業革命以前既に南阿の發展を有力なる方法で支配した。高地を成せる岩石の性質と内容、その起伏の著しき特徴はそれ以後の南阿史上に於ける主要な因子であつた。